

大学生の性的コミュニケーション力に関する研究

D07-4013 小泉洋子

指導教員 朝倉隆司

キーワード：性行動、コミュニケーション、大学生

1. はじめに

近年、若者の「性の貧困」(暴力によって踏みにじられている状況、金銭によって売買する関係に貶められている現状、下半身のみの行為として性が捉えられていること、人間関係から社会的に排除されているもとの性関係の広がり、など)が問題となっているが、性の貧困の指標の一つに性的コミュニケーションの貧弱さがあげられており、性に関わるコミュニケーションの重要性が伺える。

そこで本研究では、特に性行動が活発化してくる時期である大学生の性的コミュニケーション力に着目し、若者が性的なコミュニケーションについてどのように考え行動につなげているのか—若者の性的コミュニケーション力の実態を明らかにすること、そして、若者の性的コミュニケーション力に関連する要因を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

2011年12月9日～12月21日の期間でT大学の学生に対して自記式質問紙調査を実施した。調査票の回収数は155部、有効回答数は153(98.7%)であった。質問紙の構成は、基本的属性、社会的スキル、性の規範的態度、性に関するジェンダー意識、性的コミュニケーション力、性に関する経験と考え、性に関するコミュニケーションについての考え、である。

3. 結果

性的コミュニケーション力：「ネゴシエート」を従属変数に重回帰分析を行った結果、「ネゴシエート」に影響を及ぼす要因は、「性交経験(あり：1、なし：2)」($\beta = -0.25$, $p < 0.05$)、「問題への対処スキル」($\beta = 0.22$, $p < 0.05$)であった。性的コミュニケーション力：「相手に対する気まずさ」を従属変数に重回帰分析を行った結果、「相手に対する気まずさ」に影響を及ぼす要因は、「性別(男性：1、女性：2)」($\beta = -0.18$, $p < 0.05$)、「性交経験」($\beta = -0.38$, $p < 0.05$)、「“女性に求められたら、男性はセックス(性交)に応じるべきである”という性に関するジェンダー意識」($\beta = -0.278$, $p < 0.05$)であった。

4. 考察

重回帰分析の結果、問題対処へのスキルが性交時にネゴシエートする自己効力感を高めることが示唆された。問題対処へのスキル—社会的スキルは操作が可能である。性教育について考えるに当たり、問題対処へのスキルを高めるためのソーシャル・スキルトレーニングや、体験学習(人間関係訓練)を含めた教育を行っていくことで性交時ネゴシエートする力も養っていくことができるだろう。また、性交時相手に対して気まずさを感じずにコンドームを使用する自己効力感に影響を及ぼす要因として、「“女性に求められたら、男性はセックス(性交)に応じるべきである”という性に関するジェンダー意識」が見出された。ジェンダー平等観が教育によって養われることから、性に関するジェンダー平等感も同様に教育によって養っていけるものであると考えられる。性教育について考えるに当たり、性に関するジェンダー平等感についての教育も行っていくことで性交時相手に対して気まずさを感じずにコンドームを使用する力を養っていくことができるだろう。

5. 結論

T大学の学生は、パートナーとの性的なコミュニケーションの重要性を強く感じていながら、簡単には実行に移せないという思いを抱えており、実際に性的コミュニケーション力についての自己効力感は低かった。性的なコミュニケーション力に影響を与えている要因としては、性別、性交経験の有無、問題対処へのスキル(社会的スキル)、「女性に求められたら、男性はセックス(性交)に応じるべきである」という性に関するジェンダー意識などが有意に関わっていた。